

来週の市場とレート予想

	1/18(月)	1/19(火)	1/20(水)	1/21(木)	1/22(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 2,500	+ 2,000	トシ	トシ	△ 1,000
財政他	+ 400	△ 4,000	△ 13,000	△ 29,000	△ 3,000
資金需給	余 2,900	不 2,000	不 13,000	不 29,000	不 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国庫短期証券発行・償還(1Y)	国債発行(5年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,000 CP等買入 △ 400	共通担保(全店) △ 3,400			共通担保(全店) △ 9,100 被災地支援 △ 2
オペスタート	国債買入 + 12,900 共通担保(全店) + 1,300	短国買入 + 15,000 共通担保(全店) + 6,200 社債等買入 + 1,000			
(日本)	日銀、全国支店長会議 黒田総裁挨拶 地域経済報告(1月) 業態別の日銀当座預金残高(12月)		公社債投資家別売買高(12月)	対外対内証券売買(前週分) 主要銀行貸出動向 アンケート調査(1月) 全産業活動指数(11月)	営業毎旬報告(1/20現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額
(海外)	米 休場 欧 EU外相理事会	IMF最新の 世界経済見通し公表 米 議会予算局、 財政・経済見通し発表 米 NAHB住宅市場指数(1月)	米 住宅着工件数(12月) 米 消費者物価指数(12月)	米 新規失業保険申請件数(16日終了週) 欧 ECB金融政策発表 欧 ユーロ圏消費者物価指数(12月、改定値) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(1月、速報値)	米 中古住宅販売件数(12月) 米 景気先行指標総合指数(12月) 欧 ユーロ圏総合PMI(1月速報値) 欧 ユーロ圏製造業PMI(1月速報値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(1月速報値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.080 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.140
SPOT 6M	0.130 ~ 0.170

<インターバンク>

当座預金残高は週初、252兆6,100億円であった。今週は国債の発行が続いたことや、源泉税揚げなど、揚げ要因が多かった一方、短国・国債買入も実施され、週末は252兆9,800億円を越えた。無担保コールON物の加重平均金利は、0.075~0.076%のレンジで推移した。積み最終日となる15日は資金調達需要がやや減退したことで落ち着いた取引となり、加重平均金利は0.075%となった。ターム物は、ショートタームで0.11%台後半の出合が散見された。13日の社債買入オペの落札最低レートはマイナス0.03%となり、2015年1月15日の落札結果ゼロ%を下回り、同オペでは初めてのマイナス金利での落札となった。14日、新発10年物国債利回りは一時0.190%を付け、2015年1月20日に記録した0.195%の過去最低利回りを更新した。来週の予定は、日銀支店長会議・地域経済報告(18日)、海外では、IMF世界経済見通し(19日)、ECB金融政策発表(21日)などが挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.090
TDB 3M	▲ 0.030 ~ ▲ 0.020
現先(on/1w)	0.050 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約3,800億円で、期落ち額約2,800億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。商社を中心に大型の案件が見られ、発行額が膨らんだ。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%台前半~半ばを中心に推移した。現先レートの中心は、0.050%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約5,000億円程度となっている。

<TDB>

14日に国庫短期証券3M第580回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0220%(前回債△0.0162%)、平均落札レートは△0.0276%(前回債△0.0214%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.025%近辺の出合い。6M・1Yは△0.155%近辺の地合いとなった。来週18日に1Y、21日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

週初T/NGCは先週末同様0.10%近辺の出合。国債・短国買入オペが合計3兆3,900億円オファーされた14日受渡では0.07%台までレートが低下、一時0.05%近辺の出合も見られた。積み最終日の15日受渡は0.05%近辺から始まったが、T/Nでは0.09%近辺までレートが上昇した。18日受渡は0.07%台が出合の中心。週末には短国買入オペが1兆5,000億円オファーされたこともあり、0.05%近辺まで低下し越えた。SCは10年336回債がON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。5年債は120・123・125・126回債、10年債は321・325・328・331・333・335・338・339・340・341回債、20年債は152・155回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。